



教育目標 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

令和5年4月21日(金) 発行 第1号

『夢』

校長 田代 雅規

令和5年4月12日、東京大学の入学式で挨拶をしたグローバルファンドの馬淵氏の話が話題になっています。
<一部省略>

新入生の皆さん、そしてご家族、ご親族の皆さま、おめでとうございます。今日は、皆さんに祝辞をお伝えできるということで、はるばるスイスからやってきました。この機会に、私が皆さんより少し人生を先に生きてきて、とても大事だと感じていること、大学に入るときに知っておきたかったと思うことを、2つお話しを通して共有します。

一つは、「夢」について。もう一つは「経験」についてです。まずは、夢について

私は、東大に一浪して入りました。学力が特別にあったわけではありません。特に最初は英語が全然ダメで、英会話の授業では、体育会の友人と二人で、一番後ろの席で下を向いて、先生に当てられないようにやり過ごしていました。ただ東大に入るときにはっきりと決めていたのは、大学の4年間で、人生をかけて取り組むことを決めたい、ということでした。何も考えずに野球だけをしていた中学、高校時代の生活への反省もあったと思います。

興味が湧いた授業をすべて試してみる中で、文化人類学の授業でパプアニューギニアの先住民のギサロという儀礼を見たのです。そこで、すさまじい衝撃を受けました。めちゃくちゃ格好いいと。こんなに我々と全く違う世界観の社会に住む人がいるのかと。そういう異文化に飛び込んでそこから学ぶ、文化人類学者になりたい、と思うようになりました。それからすべての学校の休みを使って、途上国を一人で旅しまわりました。グアテマラの山奥の少数民族の村にアポなしで行って、ホームステイさせてもらいながら、フィールドワークもやったりしました。

でもそこで見たのは、子どもが病気になっても医者も薬もない状況、毎日の重労働と日焼け、栄養不足でおばあさんのような顔をしている若いお母さん、地域に根深く残る差別から仕事の機会がなくて、くすぶっている同年代の若者など、美しい洗練された文化の裏にある多くの理不尽でした。自分は、学者としてこれから学ぶだけで終わりたい。日本なら簡単に直せる、あるいはかかることのない病気に命や可能性を奪われずに人々が自分たちの文化に誇りを持ちながら、理不尽と戦って人生を生きられる、そのサポートをしたいと思うようになりました。大学時代に抱いたこの夢は、その後のキャリアの中で徐々に形になって、今も続いています。

「夢」について皆さんにお伝えしたいことは2つです。1つは、夢に関わる、心震える仕事をしてほしいということ、修行のために敢えて途上国の支援とは関係のない仕事をしたときに実感したのですが、自分の夢に関わる本当に好きなことをやっていないと、幸せの尺度が「自分が他人にどう評価されているのか」になってしまう。それでは、うまくいかないときにもたないです。他人の評価を気にする他人の人生ではなく、自分のやりたいことに突き進む自分の人生を生きてください。

もう一つお伝えしたいのは、「夢」は、探し続けて行動し続ける人にしか見つけることはできないということです。夢が見つけれないというのは、ほとんどすべての人が抱え続ける悩みですが、「夢」は、待っていれば突然降ってくるものではありません。探し続けて、行動してみて、その中で少しずつ「彫刻」のように形作っていくものだと思います。周りに流されず、自分の興味のままに、探し続けてください。

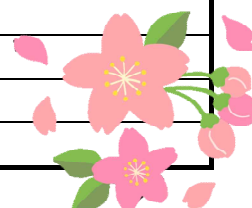
夢や目標は、簡単に見つけれないかもしれませんが。でも馬淵氏のおっしゃるよう待っていれば突然降ってくるものではないような気がします。探し続けて、行動してみて、その中で少しずつ「彫刻」のように形作っていくものなのかもしれません。新しい年度が、スタートしました。中野中生には、まずは、やりたいことに挑戦してみる、そんな1年にしてほしいと思っています。



令和5年度 教職員の転入・転出者の紹介

<退職・転出>

氏名	職名	教科	在籍年数	転出先等
鈴木 奏 登	教 諭	社 会	3年	大田区立雪谷中学校
村 越 央	主任教諭	数 学	5年	国分寺市立第一中学校
古 田 翔 吾	主任教諭	数 学	5年	大田区立志茂田中学校
大 西 敦 子	主任教諭	保健体育	7年	中野中特別支援教室
鈴木 かおる	主任教諭	英 語	1年	退職
岩 井 健 太	教 諭	英 語	3年	退職
島 田 昌 洋	主任教諭	特別支援	2年	中野区立第二中学校
北 野 佳 子	主任教諭	特別支援	7年	中野区立南中野中学校
仁 藤 伸	都 事 務		6年	中野区立平和の森小学校
岩 田 有希子	時間講師	国 語		中野区立中野東中学校
川 床 俊 一	時間講師	技 術		練馬区立大泉桜学園中学校
荒 木 啓 介	特別支援専門員		3年	中野区立江原小学校
亀 山 順 子	副校長補佐		4年	中野区立中野中学校 時間講師
六反園 留 美	心の教室相談員			退職
小 山 武	任短職員(支援員)		3年	退職
佐 藤 櫻 花	支援員		1年	退職
金 森 桜 子	支援員		1年	退職
木 島 あやの	スクールサポートスタッフ		1年	退職



<転入・新規採用>

氏名	職名	教科	前任校・その他
遊 佐 誠 一	主任教諭	社 会	練馬区立三原台中学校
浦 澤 洋 継	主任教諭	数 学	都立富士中学校・高等学校
柴 田 未 来	主任教諭	数 学	八丈町立三原中学校
末 光 裕 祐	主任教諭	保健体育	豊島区立千登世橋中学校
荘 司 康 太	主任教諭	技 術	江東区立第二南砂中学校
松 本 爾	主任教諭	英 語	練馬区立豊溪中学校
坂 爪 彌 月	産休代替	国 語	新規
高 畑 貴 子	都事務		葛飾区立四つ木中学校
中 村 佐代子	非常勤教諭	国 語	中野区立中野東中学校
大小島 道 子	特別支援専門員		新規
村 野 香 織	任短職員(支援員)		新規
山 内 大 夢	支援員・介助員		新規
木 村 由 美	副校長補佐		新規
上 島 朋 子	校内別室支援員		新規
早 川 枝里子	校内別室支援員		新規
白 井 大 治	図書館指導員		新規
荻 野 梨紗子	心の教室相談員		新規
佐々木 水 穂	心の教室相談員		新規
高 木 敏	スクールサポートスタッフ		新規



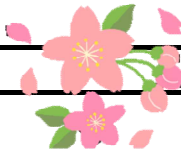
<管理職・分掌主任>

職名	氏名	職名	氏名
校長	田代 雅規	副校長	露木 明
教務主任	土屋 和彦	生活指導主任	丸山 凌侑
進路指導主任	北田 裕亮	保健給食主任	神棒 砂知子
特別支援コーディネーター	永倉 鈴子	研究研修主任	遊佐 誠一

<学年教職員> ◎学年主任 ○主任教諭

◇生徒数 4月11日現在

		男子	女子	合計	担任	副担任
1年	A組	17	17	34	○柴田 未来(数学)	○荘司 康太(技術)
	B組	17	17	34	○松本 繭(英語)	
	C組	16	18	34	○末光 裕祐(保体)	三浦 萌絵(美術)
	D組	16	18	34	◎○長谷川 美波(国語)	
	合計	66	70	136		○土屋 和彦(数学) 林原 雅也(数学) 神棒 砂知子(養護)
2年	A組	22	17	39	○北田 裕亮(音楽)	坂爪 彌月(国語)
	B組	22	17	39	宮副 瑞穂(英語)	加園 幸男(数学)
	C組	21	17	38	○遊佐 誠一(社会)	◎○野田 信行(理科)
	合計	65	51	116		山内 大夢
3年	A組	19	19	38	丸山 凌侑(英語)	山崎 璃央(英語)
	B組	20	19	39	福本 あゆみ(社会)	◎○浦澤 洋継(数学)
	C組	20	19	39	平林 鴻佑(保体)	○永倉 鈴子(家庭)
	合計	59	57	116		中村 佐代子(国語) 村野 香織
合計	190	178	368			

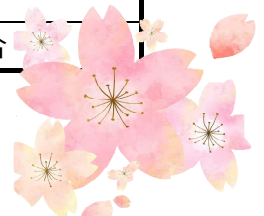


<特別支援教室>

職名	氏名	職名	氏名
教諭	木舟 雅代	教諭	菊井 雄一郎
教諭	島添 真奈	主任教諭	大西 敦子

<事務・栄養士・相談員・講師等>

職名	氏名	職名	氏名
都事務主任	高畑 貴子	区学務主査	原口 朋子
都・栄養士	吉見 朋恵	学校図書館指導員	臼井 美恵
スクールカウンセラー	永澤 久美子	学校図書館指導員	白井 大治
心の教室相談員	大谷 祐子	心の教室相談員	荻野 梨紗子
心の教室相談員	佐々木 水穂	特別支援専門員	大小島 道子
副校長補佐	木村 由美	任期付短時間教員	林原 雅也
非常勤講師	亀山 順子(理科)	非常勤講師	鈴木 明典(英語)
非常勤講師	草地 健司(数学)	専門教育相談員	今水 豊
校内別室指導員	早川 枝里子	校内別室指導員	上島 朋子
スクールサポートスタッフ	高木 敏	スクールサポートスタッフ	井上 小百合



『新入生誓いの言葉』

新入生代表 本道 実和子 さん（1年C組）

春という新しい出会いを迎える季節に私たち、新入生 136 名は中野中学校の入学式を迎えることができました。こうして入学式が行えたのは多くの方々が支えてくださったおかげです。本当にありがとうございました。

小学校を卒業し、毎日が早く進んでいきました。つい最近まで小学生だった私が今、中学校の入学式に参加していると思うと驚きでいっぱいです。小学校 6 年間で振り返るとたくさんの思い出がよみがえってきます。

私は、小学校生活で頑張った事があります。まずは、委員会活動です。私は学校の代表である計画委員会の委員長を務めていました。計画委員長として仕事を進めていく上で大切にしようと思った事に二つあります。一つは、委員会一つ一つの交流を大切に、楽しく明るい場にする事です。二つ目は、今の小学校をさらに良い学校にする事です。その二つを私は達成できたと思っています。同じ委員会の下級生が、「今日の委員会も楽しかったです。次も楽しみです。」と言ってくれた時、とても嬉しかった事を今でも覚えています。私の所までわざわざ来てそのように言ってくれた事が私の中の頑張りの一つとなりました。

そして、次に頑張ってきた事は、一つ一つの行事などの仕事にも積極的に参加しました。特に運動会や学芸会は絆を強く感じられた瞬間でした。私は、6 年間色々な経験を通して学べた事があります。それは、仲間の大切さや感謝の気持ちです。大変な時、辛い時は、仲間がそばでいつも支えてくれました。嬉しい時、楽しい時も一緒に過ごしていました。そんな仲間たちに今でも感謝しています。これからは、ここにいる 136 名の仲間と色々な瞬間を共にし、たくさんの壁を乗り越えていきたいです。また、様々な行事、部活動や委員会活動もとても楽しみです。

楽しい事もあるけれど、初めての事がたくさんある毎日は不安な気持ちになることもあるでしょう。それはここにいる 1 年生みんなも同じ気持ちだと私は思います。だからこそ一緒に頑張っていきたいです。

これからお世話になる先生方、地域の方々、中野中学校の先輩方、分からないことだらけの私たちですが、よろしく願います。そして、保護者の皆様、いつも支えてくださり、ここまで成長することができました。本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。これからの成長も楽しみにしててください。中学校生活では中野中学校を自分にとって大切に安心できる居場所にしていきます。そして、目標に向かってたくさん努力し、最高の中学校生活を送っていくことを誓いのことばといたします。

『お祝いの言葉』

在校生代表 住田 愛結 さん（3年A組）

春のやわらかな日差しを受け、すがすがしい木々の新緑に、心落ち着く季節となりました。新入生の皆さん、本日はご入学おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。また、今年度からは、新型コロナウイルスによる制限も緩和され、2 年生・3 年生が皆さんのご入学を直接お祝いできること、とても嬉しく思っております。まっさらな制服、上履きに身を包んだ皆さんは、今日、中学生としての第一歩を踏み出しました。今朝、一人ひとりが、様々な思いでこの中野中の門をくぐったことでしょう。これから、皆さんが、中野中について知っていくうちに、徐々に緊張がやわらぎ、中学校への希望が増えていくことを、心から願っています。

さて、中野中学校には、大きな行事として運動会と合唱コンクールがあります。行事では、目標をクラスみんなで話し合っただけでなく、本番に向けて、一丸となって練習していきます。ですが、クラスには、考え方も好みもそれぞれ違うみんなが集まっています。その違いから、初めは練習もうまくいかないことがあるかもしれません。私も、行事の練習でどうしたら、クラスが同じ方向を向けるのかと悩んだことがありました。そこで、大切なことは、クラスで頑張っている仲間のことを敬い、自分も自分のできるベストを尽くすことだと思います。本番当日、私たちは円陣を組んで声をかけ合いました。その瞬間にクラスが一つになったのだと実感することができました。そんな仲間たちと共に全力を出し切る行事での一日を出し切る行事での一日は、とても楽しく思い出に残るものです。

中学校には、年に 4 回、定期テストという大きなテストがあります。また、放課後には部活動や委員会活動が活発に行われます。普段の学校生活では、自分で時計を見てチャイムの前に着席したり、制服の身だしなみを整えたりなど、守らなければいけないルールもあります。小学校との変化に初めはとまどいやうまくいかないこともあるかもしれません。私も 1 年生の初めは、環境の変化をとて感じて、「大変だな」と思ったこともありました。ですが、中野中学校には心強い味方がいます。優しく、情熱的な先生方、中野中での経験を積み上げてきた 2 年生・3 年生の先輩、そして、みなさんの周りには新しい同級生。もし、困ったり、悩んだりしたことがあったら、ぜひ周りの人を頼ってみてください。これから始まる中学校生活で、皆さんは様々なことを経験することだと思います。何かを選択するときには、自分でよく考えて、責任をもって行動することが大切になってきます。これからの 3 年間の日々は、楽しいことだけではないかもしれませんが、その分中学校生活での成長は、とって大きいものになるはずです。私たち、在校生も共に協力し、新入生の皆さんをサポートしていきます。一緒に、中野中学校の歴史と良い思い出をつくっていきましょう。最後に皆さんの中学校生活が笑顔あふれる唯一無二のものになることを願い、お祝いの言葉といたします。